



市民まちづくり提案事業とは？

市民まちづくり提案事業は、まちづくり活動や子育て、環境などの地域の課題について、市民公益活動団体から協働事業の企画提案を募集し、関係する市の所管課と協働で取り組む事業です。団体の専門性やネットワークを活かし、市とともに取り組むことで、住みよいまちづくりにつながる提案を募集します。



市民まちづくり提案事業のメリット

- 市民のアイデアやノウハウが公共事業に活かされます！
- 公共サービスの質向上につながります！
- 市民公益活動が活性化します！



募集事業の概要

■ 対象となる事業

- ▼地域の課題解決に向けた活動や、公共サービスの充実につなげるための活動であること。
- ▼市民公益活動団体と市が協働で行うことで相乗効果が生まれ、一定の事業成果が期待できること。
- ▼市民公益活動団体と市の役割分担について、企画提案書で明確に記載されていること。
- ▼受益者が特定の地域や人に限定されず、広く波及効果を持つ事業であること。

■ 募集形態

① 応募型（市指定テーマ型）

市から市民公益活動団体と協働で取り組みたいテーマを示し、それに対する具体的な事業の企画提案を募集します。

② 創造型（自由テーマ型）

市民公益活動団体の自由な発想による協働事業の企画提案を募集します。

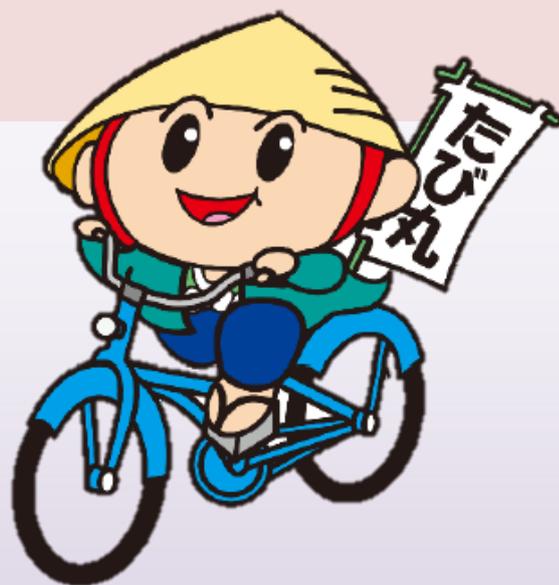
（ただし、市政への陳情要望に終わっているもの、特定の個人や団体のみが利益を受け、協働の相手方として市ではなく県等が適当と思われる提案は対象外）

平成28年度実施

草津市市民まちづくり提案事業

協働事業 事例集

市民 × 行政 の協働事業！！



外国人観光客観光ガイド発信事業

予算額200千円



**NPO法人
外国籍住民自立就労協会**



商工観光労政課

事業の背景

近年の、訪日外国人観光客の急激な増加に伴って、本市にも多くの外国人観光客が訪れるようになりましたが、本市では市内の観光地・観光素材を集めた日本人向けの観光ガイドマップしか作成しておらず、既存のパンフレットでは訪日外国人観光客への対応が難しく、外国人観光客が市内に足を運んでもらう仕組みづくりが必要であると感じておりました。そのような中インバウンド対策の一步として、在住外国人の目線で、興味を持っているコンテンツを盛り込んだ多言語観光パンフレットの作成が必要であると考え、この度、外国人住民を支援する活動等を行っている、NPO団体と協働で当該事業に取り組みました。

事業内容

10月に草津市観光使節グッドウィルナー草津2名、11月に外国人2名と草津駅周辺のまち歩きを行い、体験を中心とした取材・撮影を行いました。

外国人2名のまち歩きでは、体験や見学を通して、草津での日本らしい文化を感じていただきました。

12月以降は、各関係機関に内容の確認・校正を行い、2月に印刷を行いました。

パンフレット内面には外国人の方々が実際に感じた思いをコメントとして記載しており、外国人目線で見ていただきやすい仕上がりとなりました。



役割分担

* NPO *

- 取材対応
- ガイド制作
- 実績報告

* 行政 *

- 企画内容調整
- 取材先協力依頼
- ガイド校正 等

協働コーディネーター阿部圭宏さんからひとこと

インバウンド観光は、今や注目の分野ですが、行政対応が進んでいないのが現状です。今回の事業は、外国籍住民の支援を行うNPOがその専門性を活かして多言語パンフレットをつくるにあたり、実際に外国人にまちを歩いてもらったという点が特長的だと思います。この事業から次の展開へと進むことを期待します。

◎担当者からひとこと



特定非営利活動法人 外国籍住民自立就労協会
松井 高

外国人と一緒に街歩きするなどの企画を通し、日本人とは違った視点からの観光ガイドづくりを目指しました。草津を訪れる方たちに市の歴史と魅力を感じてもらおうと、江戸時代に焦点をあて、文化体験を通して散策を楽しんでもらえる内容にしています。英語版と中国語版ではそれぞれの言語でネイティブの方のコメントも入れています。

市単独では内容が凝り固まったものになりやすく、行政目線での仕上がりになりやすいですが、提案者の外国人向け情報発信に関するノウハウを活かす事により、観光客にみていただきやすい観光マップができたと思います。外国人の方々にもまち歩きを楽しんでいただき、草津を知っていただく良いきっかけになったのではないかと思います。



商工観光労政課
天野 志保

市政情報協働発信事業

～市民レポーターと広げよう！広報くさつの輪～

予算額200千円



草津ファン☆プロ



広報課

事業の背景

協働のまちづくりを進めるにあたって、市民の皆さんに市政情報を提供し、情報を共有することは大変重要です。

市では、月2回発行の広報くさつをはじめ、ホームページやフェイスブック、テレビ・ラジオの広報番組など、多様な媒体を活用して情報を提供していますが、基本的に広報は市からの一方的な情報発信になりがちです。

そこで、市の広報媒体への関心が高まる仕掛けや工夫、マスコミに取り上げてもらえるユニークな取り組みなどを行う中で、市民の皆さんとの双方向のコミュニケーションを図り、市政参画の意識高揚が期待できるような事業を募集しました。

事業内容

市民レポーター養成講座を全2回にわたり開催し、広報課と一緒に市の情報を発信して下さる市民レポーターを募集しました。

8月から「広報くさつ」の編集段階で最新の情報を広報課が提供し、市民レポーターのメンバーが会議で取材の予定を決定。市のイベントや事業を取材して、それをフェイスブックに投稿して発信しました。えふえむ草津のパーソナリティも務めるメンバーは、ラジオ番組でも話題にとりあげ、市の情報発信の強化につながりました。

また、11月5日のパワフル交流市民の日と同時開催で「楽しいみんなの広報活動」と題し、イベントを開催しました。来場者の皆さんがアフレコに挑戦し、草津のPRアニメをつくるなど、市民の皆さんが広報に興味をもち、草津を知り、好きになってもらえるような取り組みを実施しました。アニメは後日、びわ湖放送「知ったかぶりカイツブリにゆーす」で放映され、より多くの人に見てもらうことができました。

役割分担

NPO

- イベント企画運営
- 取材調整
- Facebook等情報発信
- 広報原稿作成

行政

- 市民レポーター募集
- 市政情報提供
- 会場提供
- 広報原稿校正

協働コーディネーター阿部圭宏さんからひとこと

行政情報を市民サイドの視点で提供していただくという仕組みは、開かれた市政を推進する上でも重要だと思われます。その意味で本事業の視点は大切です。できれば、フェイスブックの投稿へのアクセス数を増やす工夫があればよいと思われることと、これが行政側の発信と連動できると、協働事業の本質に迫るものとなると思います。

◎担当者からひとこと



広報課
井上 苑

市民レポーターとして活動することで市政への関心がますます湧いてきました。協働により自分たちだけでは出来ないことにチャレンジさせていただき、感謝しています。今後も草津大好きなメンバーがネットワークを広げ、情報とイベント企画で出会いを促進し、草津のファンづくりを行っていききたいと思います。

さまざまな媒体を使い、市民目線で積極的に情報発信をしていただきました。市だけで行うよりも効果的にたくさんの方に草津市のことを知ってもらえたのではないかと思います。今後も市民レポーター活動を続けてくださるとのことなので、とても期待しています。



草津ファン☆プロ
石本 恵津子さん